



## “保育のおもしろさ”を見つけませんか？

### ～幼児教育アドバイザー訪問事業の紹介～

幼児教育アドバイザー 広島で検索

乳幼児教育支援センターでは、乳幼児期の教育・保育の充実のため、平成27年度から広島県内の幼稚園・保育所・認定こども園等を対象に「幼児教育アドバイザー訪問事業」を実施しています。

※認可・認可外に関わらず、全保育施設対象です。



Q1 幼児教育アドバイザー訪問事業って、何？

A. 園・所からの依頼に応じ、幼稚園や保育所での勤務経験が豊富な、園（所）長経験者や現役園長、養成大学の指導者などが、園・所を訪問し、園・所の教育・保育を支援します。なお、費用は一切かかりません。



Q2 どのくらいの利用があるの？

A. 過去3年間で、延べ800回以上利用されており、この回数は年々増加しています。



Q3 訪問を希望するときは？

A. 訪問を希望する園・所は、幼児教育アドバイザー訪問依頼書（センターHPからダウンロード）を提出してください（公立幼稚園においては、市町教育委員会を經由して提出）。



Q4 具体的にどんなことをしているの？

A. ①幼児教育アドバイザーが、次のようなことについて、助言を行うとともに、園・所の先生方と一緒に考えていきます。

- (例) ○乳幼児理解・乳幼児の姿の見取り方
  - 教育・保育の内容 ○乳幼児への援助や支援
  - 環境構成 ○保育記録の取り方・活用する方法
  - 指導計画・日案の書き方 ○小学校との連携
  - 保護者への対応の仕方
  - 特別な支援を要する乳幼児の支援の在り方(※)等
- ※県立特別支援学校の教育相談主任等の同行も可能です。

午前の保育参観後、午後に協議を行う形態の訪問を推奨していますが、ご希望の形態で訪問します。

②幼児教育アドバイザーが、研修等において教育・保育に関する講義等を行います。

ご不明な点等ございましたら、乳幼児教育支援センターまでお気軽にご連絡ください。ご依頼お待ちしております！

## 園・所の先生方へ

### ～東京大学大学院教育学研究科 秋田喜代美教授からのメッセージ～

つながりあう  
信頼の輪が育ちを支える



新型コロナウイルス禍で、物理的には三密を避け距離をとつても、相手を思いやる心のつながりはむしろ密にすることの大切さを学んだこの数か月でした。この「NEWS LETTER」や「遊び学び育つひろしまっ子！」教育・保育実践事例集」が仲立ちになり、広島県ならではの連携や取り組みの知恵を共有し、「私たちも取り組んでみよう」、「似たことはやっているけど、でもちよつと違って、うちはこんな工夫をしているね、ここは学べるね」と他の事例から学び上手になりたいものです。通信等をうまく活用し、園の保護者と、保育者同志で、地域での保幼小間対話し、つながりが信頼の輪の拡がりになるといいですね。

東京大学CEDEPでのコロナに関する調査では、「新型コロナの問題が落ち着いた後(afterコロナ)変化すると思うこと」として回答者の半数近くが選んだ項目が「行事」と「衛生管理」のあり方でした。「行事で一番大事なことは？乳幼児期の衛生はどこまでどのようにすればいい？」と、私たちが大事にしたいことを語るチャンスでもあります。「ピンチをチャンスに」はよく言われる言葉ですが、子どもたちの笑顔に、保護者、保育者、教師も元気をもらい信頼の輪を共につないでいききたいですね。

秋田先生には、広島県乳幼児教育支援センターアドバイザーボード委員として、本県の様々な取組に関して御指導、御支援をいただいています。

# コロナ禍での園再開 ～園の工夫を紹介します～

## 給食

給食に関しては、特に注意が払われており、文部科学省の指針に沿って、様々な工夫が行われています。

- ★園児の給食当番は中止
- ★テーブルを増やし、園児の距離を確保
- ★副食を3品から2品に減らし、素早く配膳
- ★おやつは個包装を用意 など



「給食楽しみだな」  
三原市立本郷幼稚園

園・所では、日々感染防止に配慮しながら、子供たちの健やかな成長に向けて、保育を工夫されていることと思います。

先日、県内の公立幼稚園を対象に、園再開に関する状況を聞きました。

公立幼稚園で行われている「コロナ禍での工夫」について紹介します。

## プール遊び

暑い日に嬉しいプールですが、密を避けるために中止し、園庭等での水遊び等に替えている園が多いようです。



「水遊び、気持ちいいね！」  
廿日市市立宮島幼稚園

## 参観日

保護者に保育を理解していただく意味でも大切な参観日。次のような対策が考えられています。

- ★クラス毎に参観日を設定
- ★保護者をグループ分けし、少人数で参観
- ★園庭、遊戯室等の広い場所で実施 など



## さらに…

降園時に行う当日の保育内容の説明

- ★時間を短縮
- ★ホワイトボードに記載



# 子供が自分の気持ちを立て直すということ…

「教育・保育実践事例集(平成30年3月広島県教育委員会)」から、人気のあるおもちゃの取り合いをしていて、B児(1歳9か月)に力尽くで取られて、泣いてしまったA児(1歳5か月)の事例を紹介します。

(保育者をたたきながら泣き続けるA児に保育者が…)

背中をトントンと優しくたたきながら、気持ちが収まるのを待っていると、だんだん気持ちが落ち着いて来たのか、泣き声が少しずつ小さくなっていく。

保育者が、「Aくん、Bくんに『貸して』って言うってみる？」と話しかけると、泣き顔のまま首を横に振って、「オッパ イイ(おんぶして)」と保育者の背中に回って肩に手をかける。

A児は、体が強張り、まだしゃくりあげている。「Bくんに取られちゃったね」「あれで遊びたかったんだよね」とA児の思いを言葉にしなが、ゆっくりと保育室を回っていると、A児は保育者の肩に頭を寄せ、クタッと全身を密着させてくる。その体勢のまましばらくじっとしているが、もぞもぞと動きだして自分から降りようとするので、そっと降ろすと、A児は保育者を振り返ることなく、何事もなかったかのように、他のおもちゃで遊び始める。

「遊び 学び 育つひろしまっ子!」教育・保育実践事例集 p21-22 事例6 「おんぶして…」より



この保育者は子供の身体の変化を感じ取りながら、子供の気持ちを読み取っています。また、子供の望んだ方法であるおんぶをすることによって、子供の気持ちを受け入れるとともに、子供の気持ちを言語化しながら、その思いを受け止め、子供が気持ちを立て直すのを待っています。

このような場面に出会った時、あなたならどうしていますか？

【発行元及び連絡先】 広島県乳幼児教育支援センター

〒730-8514 広島市中区基町9-42 広島県教育委員会事務局 (東館6階)

TEL 082 (513) 4978 FAX 082 (212) 3331

広島県乳幼児教育支援センターホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>

